

令和8年度 学校経営方針

(菊川市立小笠北小学校)

1 前年度(令和7年度)の取組

学校教育目標 「自信をもち 自分の力を発揮する子」(岳洋学舎共通目標)

重点目標 (R4～R6) 「自分をみがく子 ささえ合う仲間」
(R7) 「気づき 考え 挑戦する子」

(1) 「気づき 考え 挑戦する」PDCA サイクル

よりよくなるための種と芽に気づき考え挑戦する1学期

成長している葉と花に気づき考え挑戦する2学期

自分達が実らせた実とつなぐ方法に気づき考え挑戦する3学期

(2) 主体的に考え自発的な対話をうむ「学びつくり」

(3) 思いやり環境と危機管理の日常化で関わりをうむ「仲間つくり」

2 前年度(令和7年度)の児童の実態 成果と課題

(1) 自己肯定感が向上している。

「学校が楽しい」「みんなで何かをするのは楽しい」「自分にはよいところがある」と答える児童が90%を超えた。これは、「挑戦の木」や「ボイスシャワー」による「お互いの良さを認める」実践の成果である。

一方、「進んであいさつをしようとしている」と答える児童が、昨年度より7.2%減少した。

(2) 思いやり環境を意識できるようになってきた。

90%近くの児童が、「国籍・性別・年齢など、分け隔てなく関わっている」と答えた。これは、「なぜ思いやり環境が必要なのか、どうしたらよいか」について、児童会を中心に自分たちのこととして考えた成果である。

(3) 対話を大切にしたい授業ができています。

「先生や友達の話最後まで温かく聴いている」と答える児童が2年連続90%を超え、「相手を意識してわかりやすく伝えようとしている」と答える児童が昨年度より16.7%増加した。これは、小笠北小学校が大切にしたい授業の「めもま(めあて、もんだい、まとめ)」による分かる授業の継続に加え、「学びのつくえ」や「ミルキ名人」による聴く姿勢・反応のレベルアップなどの成果である。

一方、「授業に主体的に取り組んでいる」と答える児童が目標値を下回った。

(4) 地域などとの関わりを大切にしたい意識を高めたい。

「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることができる」と答える児童が昨年度より9.2%減少した。

国・県・市の方針

(1) 学習指導要領 文部科学省「新学習指導要領改訂主旨」(一部抜粋)

ア 学校で学んだことが、子供たちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。

イ これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創ってほしい。


(2) 静岡県・菊川市の教育


ア 静岡県 有徳の人の育成

イ 菊川市 [確かな学力、健やかな心身]の育成を目指した、知・徳・体のバランスの取れた教育の推進

		項目 ★ア～ク菊川市共通項目	R6	R7		R8
			肯定	目標値	肯定	目標値
自己肯定感	1	★ア 学校が楽しい	91.4		90.6 	
	2	★イ みんなで何かをするのは楽しい	97.5	90	96.5 	95
	3	自分にはよいところがある	86.0		90.8 	
	4	・進んであいさつしようとしている	88.9		81.7	
思いやり環境	5	相手をさんづけして呼んでいる			74.0	
	6	国籍、性別、年齢など 分け隔てなく関わっている			89.9	
	7	教室、ろうか、階段、トイレ等、落ち着いて過ごしている			88.4	
学力向上	8	★ウ 授業に主体的に取り組んでいる	92.9	90	88.5 	90
	9	★エ 授業がよくわかる	92.3		89.4	
	10	★オ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている	88.1		84.7	
	11	先生や友達の話最後まで聞いている (R7) あたたく聴いている (R6)	91.1		91.2 	
	12	相手を意識してわかりやすく伝えようとしている	75.3		92.0 	
	13	分かったことや学習の振り返りを書くことができる	87.4		86.2	
	14	★カ 授業でコンピュータなどの ICT をどの程度使っているか	76.0		88.2	
	15-1	①授業でタブレットを使って調べ学習をした	73.6		83.4	
	15-2	②授業でパソコンやタブレットを使って、友達と意見の交流をした	72.5		63.8 	
	15-3	③授業でパソコンやタブレットを使って、自分の考えを、まとめたり発表したりした	62.0		55.9 	
連携	16	★キ 学校に、信頼することのできる先生がいる	95.6		93.5 	
	17	★ク 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	88.0	70	78.8	80

肯定的評価 (当てはまる どちらかと言えば当てはまる ほぼ毎日 週1回以上)

 90%以上または R7 目標値達成

 70%以下または R7 目標値以下

3 令和8年度のめざす子供の姿

- (1) 岳洋学舎学校教育目標（小笠北小学校学校目標）
「自信をもち 自分の力を発揮する子」
- (2) 重点目標（めざす子どもの姿）

「気づき 考え 挑戦する子」

児童の具体的な行動

北小ナンバーワンあいさつ(自分が目指すあいさつ)ができる。
大きな声で、校歌を歌うことができる。
落ちている物を見つけたら、自分から拾うことができる。
時間を意識し、進んでチャイム着席を呼びかけることができる。
活発に対話したり、前に出て説明したりする。
授業の振り返りで、「分からないこと」と「学んだこと」を書く。
校内外のボランティア活動へ積極的に参加する。
地域・学校・学級のために「○○しよう」と提案する。
正しくない行動を指摘し、困っている仲間にやさしい声かけをする。
相手の名前を大切にし、さらにそれを啓発する。

4 めざす子供の姿を実現するための成果指標

- (1) 自己肯定感を高める学校 「みんなで何かをするのは楽しい」 95%
- (2) 児童が主体的に学ぶ学校 「授業に主体的に取り組んでいる」 90%
- (3) 地域とともにある学校
「地域や学校をよくするために何をすべきかを考えることがある」 80%

5 具体的な取り組み

- (1) 「気づき 考え 挑戦する」PDCA サイクル
 - ア 「北小ナンバーワンあいさつ」と「対話」で、元気いっぱい1学期
 - イ 「積極的な行動」と「問い」で、関わりいっぱい2学期
 - ウ 「自慢の校歌」と「思いやり行動」で、伝統をつなぐ3学期
- (2) 生徒指導の2本柱「自己肯定感向上」「思いやり環境」
 - ア 「思いやり環境」と「危機管理の日常化」で安心・安全な学校を実現する。
 - イ 「挑戦の木」とボイスシャワーで「自己肯定感の向上」をめざす。
- (3) 学力向上
 - ア 「授業のめ・も・ま」の継続で分かりやすい授業をめざす。
 - イ 「学びのつくえ」で学びの土台をつくる。
 - ウ 「きく・が・わ授業」で「ミルキ名人」を目指し、対話力を育成する。
身体を向けて聴く(きく)、たくさん書く(が)、大きな声で話す(わ)
 - エ 「分からなかったこと」と「学んだこと」で問いを生む振り返りをする。
 - オ 関わりから学ぶ「総合的な学習の時間」と「読書」を推進する。
- (4) 主体的な児童会活動
 - ア 何を、なぜ、どうすればよいかを児童が考え挑戦する。
 - イ 自分たちで呼びかけ合って行動する集団をめざす。
 - ウ 感謝と積極的な関わりで主体性を育成する。
 - エ 学校が楽しいと感じる機会を計画的に設定する。
- (5) ゆとりのある安定した学校
分かりやすい日課と見通しのある計画をする。